

平成 18 年度 ホウレンソウへの「ピオン S888」施用試験結果(J A 利根沼田管内)

日本肥糧株式会社

- 1)目的 ホウレンソウに対する「ピオン S888」の施用効果について検討する。
- 2)場所 群馬県利根郡 J A 利根沼田管内
- 3)作物 ホウレンソウ(マジェスター)
- 4)施肥設計 慣行区は農家慣行肥料(有機態窒素 50%)を施肥し、試験区(ピオン区)はピオン S888 を施肥した。いずれも、窒素として 10(kgN/10a)相当施肥した。隣接する 2 つのハウスにそれぞれの区を設けた。
- 5)播種日 慣行区は 8 月 3 日、ピオン区は 8 月 7 日
- 6)調査日 8 月 24 日
- 7)試料の採取と調査方法

慣行区とピオン区の作物の状態を以下の指標によって評価した。

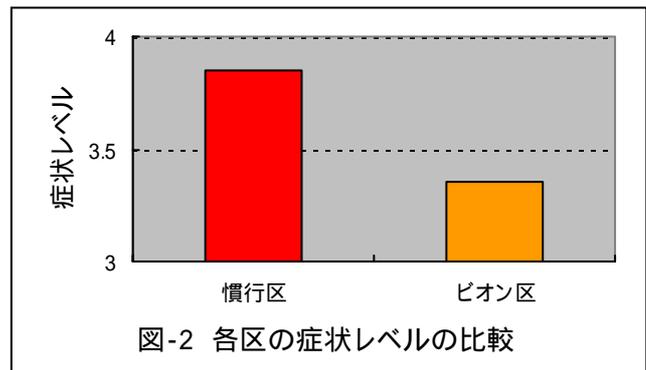
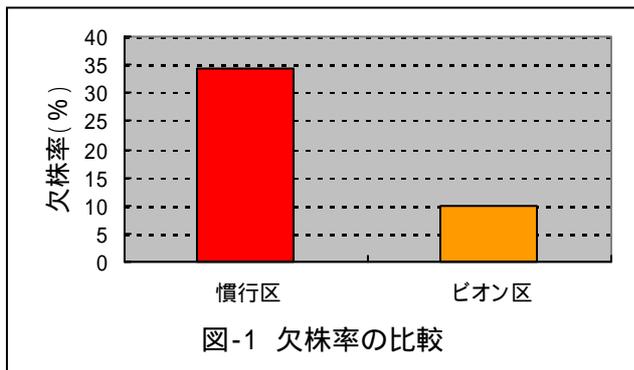
欠株率：調査圃場の中からランダムにおよそ 1 m x 1 m 区画の調査地点を 20 箇所設定し、目視で欠株(生育異常の株)の発生している面積率を 10% 単位で評価。

症状レベル：調査地点の中で異常が認められた場所において、症状のレベルを判定。

症状レベル 0...無症状 (全て健全株)
症状レベル 1...軽度の萎凋(葉が数枚しおれる)
症状レベル 2...中度の萎凋(しおれている葉と健全な葉が半々程度)
症状レベル 3...重度の萎凋(ほとんどの葉がしおれている)
症状レベル 4...枯死

8)試験結果

欠株率、症状のレベルをそれぞれ図 1、2 に示し、調査時の状況を写真 1、2 に示した。



t 検定により慣行区とピオン区の間には有意差あり



【写真 1】 慣行区の様子



【写真 2】 ピオン区の様子

ピオン区は、慣行区に比べて異常株が有意に少なくなっていた。

写真からもピオン区の欠株が少なく、生育が揃っていることが観察された。

以上